



医療

金働く 土くらしスタイル 日かしこいおかず

1分で知る
豆医学

カルテなどの情報を医療機関で共有する動きが広がっている。2000年には三つのネットワークだったが、14年は139（予定含む）に。日医総研が調べた。

病院と診療所が連携して患者を診る時代だ。医療の質を向上させるには、患者

患者の情報① カルテを共有

情報の共有が欠かせない。

その中のひとつ、長崎の「あじさいネット」は全国から視察が後を絶たない。

6月28日現在、19病院と診療所など191施設が結ばれ、患者約2万8千人が登録に同意。共有されるのは、血液検査、画像、処方薬など治療に関するほとんどの情報だ。診療所のかかりつけ医は、病院に紹介した患者の入院後の様子がパソコンでわかる。退院後の治療にも生かせる。

運営するNPO法人理事の長崎大病院医療情報部の松本武浩准教授は「判断が難しい心電図などでも過去の記録と比べれば、診断しやすい」と話す。

かかりつけ医らが情報を閲覧している時間帯は診療中の午前10時～正午と診療後の午後5時ごろが多い。

入院先の診断や治療の記録を点検することで、医師が、最新の医療を学ぶことにもつながっているようだ。（岩崎賢一）